

## 「低く飛ぶツバメ」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

気象衛星もテレビの天気予報もなかった時代、人々は空模様や動物の動きなどで、天気の変化を予測していた。「観天望気」(かんてんぼうき)という。「夕焼けがきれいな時は、翌日晴れ」「太陽に暈がかかると悪天の兆し」などは有名である。

動物の動きを見て、天気を予測するものの中には、「ことざわ」になっているものもある。「天気俚諺」(てんきりげん)という。中でも一番有名なのが「ツバメが低く飛ぶと雨」というものだろう。本当にそうなのだろうか？

私が毎夏、作品展を開催する「北軽井沢駅舎」の前には、たくさんのツバメがいる。不思議と、この駅舎には巣は一つもないのだが、周囲の商店や民家の軒下に営巣しているのだ。今日は朝から雨だったが、確かにどのツバメも、例外なく低く飛んでいる。



ほとんどお腹がつきそうなほど、路面スレスレに飛んでいる。雨の前、または雨の中をツバメが低く飛ぶ

のは、雨の中を低く飛ぶ、虫をとらえる為・・・と言われている。本当にそうなのだろうか？



この雨の中、よく見ると、ツバメは何かをくわえて飛んでいる。どうやら虫のようだ。きっとヒナのいる巣に運ぶのだろう。虫を捕える一瞬を撮影したくなった。しかし、ツバメは、特急列車や新幹線の愛称になるほど、高速で飛ぶ鳥だ。カメラのほうも、ツバメを追いかけて「流し撮り」をする必要がある。



これが、虫をつかまえた直後。飛んでいる虫ではなく、雨で木の枝から落ちた虫を、地面からすくい上げたのだ。低く飛ぶ虫の動きに合わせて、「ツバメ返し」(急旋回)する様子も観察できた。雨の前はどうかわからないが、雨の中のツバメは、確かに虫を求めて低く飛ぶことがよくわかった。